（参考資料１）**水稲病害**の発生と総合防除（ＩＰＭ）技術（広島県中部）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月  **中干し**  田植期  分げつ期  幼穂形成期  最高分げつ期  成熟期  育苗期 | ５月 | ６月 | ７月  出穂期 | ８月 | ９月 |
| 水稲の生育 | 標高：３００ｍ  品種：コシヒカリ |  |  |  |  |  |
| 管理内容 | 塩水選  育苗箱施薬  苗立枯病防除  種子消毒 |  |  | 穂ばらみ期防除 | 出穂期防除  カメムシ多発生または  常発地の場合  傾穂期防除 | 収穫 |
| 病害虫の発生・ＩＰＭ技術  **中干し**  **中干し** | 【育苗期の病害】  苗いもち  【管理上の注意点】  覆土をていねいに行う  【基本技術】  種子更新を行う  塩水選を行う  種子消毒を行う（温湯or薬剤）  ばか苗病  【管理上の注意点】  出芽時の温度が、高温になり過ぎないよう（３５℃）注意  発病株は抜き取る  【基本技術】  種子更新を行う  塩水選を行う  種子消毒を行う（薬剤）  苗立枯病  【管理上の注意点】  育苗中の温度変化に注意  しおれ症状の発生に注意  しおれ苗のカビの発生に注意  【基本技術】  育苗箱を消毒する  育苗施設の汚れを落とす  育苗土は無病土を用いる        苗立枯細菌病  もみ枯細菌病  【基本技術】  種子更新を行う  塩水選を行う  種子消毒を行う（温湯or薬剤）  【管理上の注意点】  **発病苗を植えないよう注意**  出芽温度が３０℃を超えないようにする  しおれ症状の発生に注意  しおれ苗の根の褐変に注意 |  | 【基本技術】  健全な苗を用いる  育苗箱施薬剤を施用する  肥料（窒素分）の適正施用  葉いもち  【本田中期の病害】  ばか苗病（本田）  【管理上の注意点】  発病株は発見次第抜き取る  採種しない | 【基本技術】  穂ばらみ期防除の実施  ＊要防除水準：穂ばらみ期発病株率  早生種：10％以上、中生種：20％以上  【管理上の注意点】  縞葉枯病発生田では、ヒメトビウンカの越冬幼虫密度を低下させるためほ場を耕起する。  【基本技術】  白葉枯病に強い品種を選ぶ  伝染源となるサヤヌカグサを  除去する  【管理上の注意点】  台風等で、ほ場が深冠水したり、葉に傷がつくような場合、  発生に注意  白葉枯病  紋枯病  縞葉枯病（ウイルス病）  もみ枯細菌病  【管理上の注意点】  置き苗を早めに処分する  大豆作付跡等、過繁茂な生育のほ場での発生に注意 | 稲こうじ病  【基本技術】  薬剤によって防除時期が異なるので、適期を逸しない。  【管理上の注意点】  　　肥料（窒素分）の適正施用  【管理上の注意点】  上位３葉の葉いもち発生に注意  穂いもち発生ほ場では、自家採種しない  【管理上の注意点】  発生ほ場では、自家採種しない  【本田後期の病害】  穂いもち  【管理上の注意点】  過繁茂な生育で発生し易い  夏期、高温･多雨の場合、発生が増加し易い  【基本技術】  葉いもちの発生を抑える  穂ばらみ期の防除の実施  出穂期前後の防除の実施 | ＊図の長さや位置は主要病害虫の発生時期を示している。  ○○病  ○○病  ○○病  ○○病   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 凡例 | |  | |  | 天候により発生は変動するが、被害が大きい | | |  | 発生はまれだが、発生すると被害が大きい | | |  | 常発地で被害がでる | | |  | 発生状況に注意する | | |